

ぎんこい か こしほ えりもと
銀恋は 鹿の子絞りの 襟元に

と い き
寄せる吐息で 夢物語る

令和七年三月二十四日

大中臣正比呂



こんな写真が出てきたと話す人の、「今度ゆっくり食事をしませんか」
と言うお誘いは嬉しい。思い出が我に 蘇る時であるからか。

北の酒場通りにはカレースープ、西国の東中州には辛みの効いた雑炊。

檀一雄の「火宅の人」は不倫小説であろうが、筆者はその記憶より、
料理の本である。酒の肴としても美味そうな料理が書かれていて、
酔った帰りは、いつも思い出す。